

情勢報告

栽培しながら、頭の中では計算を！農業基礎講座開催



せっかく作った決算書。
将来の経営に活かそう！

11月20日に第5回農業基礎講座を開催した。今回は、『決算書の見方』と題して経営管理に関する講習を行った。管内の新規就農者や後継者の他、経営指導力の向上を目的に参加したJA営農指導員や普及指導員の計16名に対して、経営の実態把握 具体的な目標設定 の二つの重要性を訴えた。参加者からは、「内容は難しかったが、納得できる部分も多くあった」、「他の多くの人にも聞いて欲しいので、もう一度講習して欲しい」などの前向きな声を聞くことができた。今後も簿記講座や青色申告会を中心に、農家自らが経営改善を考えていけるよう、指導・支援に努めていく。

ナス「土佐鷹」の技術研修会と普及体制の検討会を開催する



普及指導員、JA指導員らが農家に
栽培技術を助言

今月も、ナス「土佐鷹」の生産振興にとりくんだ。

第2回ナス品目別研究会を開催した（11月13日、57名参加）。現地5ヶ所において、今年発生が多かった 舌出し果 の発生原因、摘葉方法や温度管理、葉面散布剤について検討した。

また、各地区においてJAと協力して栽培農家全戸を巡回し生育状況を確認、栽培管理方法についての助言を行った。

11月22日には、JAナス部会に「土佐鷹」研究会の立ち上げについて、JAと協議をおこなった。今後は、この会を中心に生産農家間の交流はもとより、生産拡大の雰囲気づくりを図っていく。

出前授業で・・・「なんか旨いぞ安芸のナス！」



10月27日に東京都江東区の東陽小学校において、安芸市のナス生産者と出前授業を行った。「なんか旨いぞ安芸のナス」と題して、環境にやさしいナスづくりや、食べ方を紹介した。とくに、生産者の、ナスづくりの喜びや苦労話には目を輝かしていた。ナスに関するクイズで、（ナスが地下になっていると思っている生徒が多い。）「ナスが木になっていることを始めて知った」という驚きとともに、教室の熱気は頂点となった。ナスがより身近な野菜になったのでは。

生産者は初めての経験であったが、小学生のあまりの反応のよさに、自分の仕事を伝える喜びや必要性を感じた様子であった。

情報交換の場づくり、JA土佐あき安芸集出荷場地区会開催される。



10月30日～11月2日の4日間、川北・伊尾木地区、中央地区、下山地区、北部地区で地区会が開催され、合計で約60名が参加した。

ナス、ピーマン等の主要品目について現地圃場を巡回し、生育状況や今後の管理について意見交換会をおこなった。その後、室内にうつり、センターからはナス「土佐鷹」の特性と18トンどりの栽培方法や病害虫防除等について情報提供をおこなった。また、今、問題の害虫コナジラミの防除に関するアンケート調査を実施した。最後に、生産者のリクエストによりナスの主要品種の食べ比べが行われ、各会場とも大いに盛りあがった。

今後とも、この地区会を農家の情報交換の場として、より参加の輪を拡げていきたいと考えている。

「お宝探し」で交流資源の発掘～安芸郡北川村～



北川村交流マップづくり

安芸農業振興センターでは、地産地消推進事業を導入し、北川村・奈半利町・田野町の広域的な交流活動をすすめている。今回、北川村の交流活動を強化するため、10月31日、小島地区加工所で村内の交流組織や加工組織、「モネの庭」等の代表者が参集して交流推進会議を開催し、「北川村のお国自慢交流マップづくり」作業を行った。

北川村の交流資源を、五感の視点から出し合い、季節ごとの表と村の地図におとしていった。次にその交流資源をつなげて、半日～1泊2日の交流コースを考案し、交流による地元への経済効果をまとめた。次会は交流コース案を現地巡回することになった。

上手なナスづくりは日々の世話から ～立木コンクール審査より～



真剣に審査する営農指導員

生産者、JA、センター等で構成する室戸市農業研究会では、園芸農家の栽培意欲向上と栽培技術の高位平準化を図るために、ナス、ピーマン等の主要品目について、毎年立木コンクールを実施している。

まず、11月21日からナスの審査を始めた。参加農家は53戸である。対象農家から「このハウスは管理が遅れている」とか、「今は、実がない」という声が聞こえる中、審査員は草姿、病害虫、整枝、果実、環境、土作りの6つ項目を慎重に採点した。

今年は天候が順調のために今月上旬まで出荷が集中し、現在成り疲れの圃場が多いが、技術の高い農家は適度な着果と力強い樹勢を保っていた。審査結果は集計中だが、表彰は来年9月の総会で行われる。